

中支那經濟年報

全五卷

◆監修・解説◆金丸裕一

財団法人東洋文庫研究員
立命館大学教授

◆解説◆吉田建一郎

日本学術振興会
特別研究員

1942 (昭和17) 年以降の激変する
中支那の政治・経済界の3ヶ月
(のち半年) ごとの動向及び見通
しを徹底的に分析した中支那
経済年報刊行会編、『中支那経
济年報』を復刻。

刊行にあたって

財団法人東洋文庫研究員
立命館大学教授

金丸裕一

日中戦争からアジア太平洋戦争、そして敗戦や引揚、続く内戦にいたる期間の中国本土の歴史、とりわけ日本の実質的支配地域（傀儡政権支配地域）における各種施策の動向や、政治・経済・社会・民生などの実態についての研究は、現在なお発展途上の段階にある。これは、大後方（国民党支配地域）や辺区政権（共産党支配地域）に対する研究が、特に一九八〇年代後半以降から飛躍的に展開した潮流と、好対照をなしているといえるであろう。

中国近代史の文脈でいえば、後者は民族的「抵抗」の主体であり、国民党と共産党との間で、その手法には明らかな相違があったとはいえ、戦後中国の民族的「建設」の青写真は大後方や辺区に起源を有するのであるから、これは至極当然な現象であるかも知れない。しかし、わたくしたちの日常生活を想起するまでもなく、圧倒的多数の生活者にとって、暮らしの「場」というものは、政治的あるいは軍事的圧力の加重を勘案しても、容易に移動できるものではない。別言すれば、数多くの生活者にとって、戦争や内乱を事由に居住地を転じるといふことは、信念や節操を遵守するといった次元とは全く異なる、極めて困難な行動なのである。

かかる観点から当該時期を考えた場合、研究史の空白はやはり埋めねばならぬ。とりわけ、華北・華中・華南などの中国本土における経済的先進地域が、日本が発動した侵略戦争の結果として「不正常」な状況への突入を余儀なくされたことは銘記されねばならない。加之、中国近代史の中でも、この時期の記録は日本語によって残されている事例が多いが故に、史料発掘や解説、そして歴史叙述に対する運用といった基礎的作業の遂行は、われわれ日本人の原罪を認識するためにも、不可避の義務といえるのである。

今回は、「中支那経済年報」という報告書を復刻の対象に

選定した。同書は、上海共同租界の蘇州河北側、外白渡橋（ガーデン・ブリッジ）を渡った直近に位置するアスターハウス八八号（現在の浦江飯店）に拠点を置く、「中国政治経済研究所」（第一輯、一九四二年九月）、及び「中支那経済年報刊行会」（第二輯、第五・六輯、一九四二年一月～一九四四年九月）が「現地発行」を宣伝文句にしていた刊行物である。周知の通り、いわゆる「大東亜戦争」勃発後、英国・米国・オランダなどの連合国在華権益、そして上海ではその象徴たる共同租界の行政権自体が、日本によって全面接収された。したがって、「中支那経済年報」は、日本による華中の中枢たる上海完全占領という新局面を背景に登場したという時代性を帯びている。

このため本書では、従来はあまり知られていなかった一九四二年五月から一九四四年六月に到る期間の、戦況・政治経済・各種統計などの公式発表、及び法規類が網羅的に紹介されるほか、各産業や経済の動向・統制政策、あるいは政治外交問題といった幅広い主題が、すべて署名論文において執筆・掲載されている。いうまでもなく、それらには当然、日本側による操作が加えられていた。伏字や記事の削除などが散見され、無批判的には用いるべきでない。同じく、発行主体や編集者、及び署名論文執筆者などについても、解題において詳述する通り、曖昧な部分が多くある。しかしながら、この時期の日本語一次史料、更に汪兆銘政権による中国語一次史料を所蔵する南京市の「中国第二歴史檔案館（公文書館）」が、これらを何らかの理由で一般公開する気配すら見せぬ現況にあつて、「中支那経済年報」に掲載される各種記録は、「大陸年鑑」や「朝日新聞中支版」、あるいは「大陸新報」と同じ程度において、未知の歴史を知るための重要な手がかりとなるのである。

繰り返しになるが、特に本書成立の背景には謎の部分も多く、編集意図の分析などを含めて、わたくしたちに与えられた課題は大きい。願わくばこの復刻版の利用者諸賢は、みずからもまた解題者の立場に身を置きながら、「操作」されたことが明確な大部の二次史料を、いかにして客観的歴史叙述に援用するかという問題群について、その重き課題を担い考えつつ、共に歩んで欲しいと思う。

◆本書の特色◆

- 太平洋戦争中に、上海を中心とする「中支那」地域の政治・経済・社会・文化の実情をまとめた四季報（収録期間：1942年5月～1944年7月）。現地・上海にて、生の情報に基づき作成された貴重資料。
- 年鑑とは異なり、3ヶ月から半年ごとにまとめられた編纂物として他に類書が無く、戦時下の上海及び「中支那」地域の動向が、刻々の変化とともに詳細に分かる資料。
- 物価指数などの上海等の統計資料を巻末に多数収め、市民生活の実際を窺う情報も広く収録。
- 在上海の日系企業の広告も多数収められるなど、その動向を知る手がかりともなる。
- 一次史料の発掘が難しい戦時期の上海、及び「中支那」地域の政治・経済・社会・民生などの実態を知らせる好個の資料。

報告せんとするのである。

「本年報」の特徴、内容を要約すれば即ち「中支那經濟年報」は清新にして正確なる現地資料を中て一般人士の中支那

、如何に變化しつ、家を通じて、それぞ

に生起する政治經濟

して、支那問題の一

的な理論を提供する

る中支那の政治經濟

批判したが、本第

自昭和十七年八月一日
至昭和十七年十月卅一日

中支那政治經濟日誌

(○)印は軍政關係
(×)印は經濟關係

八月

一日(土)

- 陸軍定期異動發令され、納見上海憲兵隊長憲兵學校々長に轉出
- ×杭州、嘉興、鎮江三地方の舊幣使用禁止
- ×邦人食米の配給量改正實施
- ×敵性生命保險會社の清算事務完了、保險金並に解約返戻金支拂ひ
- 清鄉委員會上海委員會分會發會式
- 中國海關職制改革實施
- 一般人の碼頭出入禁止
- 南京、東京間の直通電話開通
- 上海陸戰隊警備擔當區域に於けるコレラ發生家屋の交通遮斷八月七日より實施の旨當局談發表
- 浙東作戰、わが軍敵第九軍司令部所在地松陽縣城占領
- 黃浦江上戎克生活者の醫學的調査始まる(十二日迄)
- ×上海外國銀行組合の改組なる。會長に河村正金銀行支店長就任
- 中央儲備銀行漢口支店開業
- ×工部局小賣販賣稅の適用範圍明示
- ×重要物資別日華同業公會第一回理事者總會與亞院華中連絡部に於て開催、中支の物價安定策、重要物資別日華同業公會と市商會との調整策の二項目に就て當局諮問
- 引揚敵國人三百二十四名を乗せ龍

中支那經濟年報

全5巻

[監修] 金丸裕一 財団法人東洋文庫研究員・立命館大学教授 [解説] 金丸裕一／吉田建一郎 日本学術振興会特別研究員

全5巻 揃定価129,150円(本体123,000円) ISBN978-4-8433-2807-1 C3321

2008年9月刊行

- ◆第1巻◆中支那經濟年報 第1輯 昭和17年 民国31年 第二・四半期 A5判上製／函入
..... 定価25,200円(本体24,000円) ISBN978-4-8433-2808-8 C3321
- ◆第2巻◆中支那經濟年報 第2輯 昭和17年 民国31年 第三・四半期
..... 定価31,500円(本体30,000円) ISBN978-4-8433-2809-5 C3321
- ◆第3巻◆中支那經濟年報 第3輯 昭和18年 民国32年 第一期
..... 定価25,200円(本体24,000円) ISBN978-4-8433-2810-1 C3321
- ◆第4巻◆中支那經濟年報 第4輯 昭和18年 民国32年 第二期
..... 定価24,150円(本体23,000円) ISBN978-4-8433-2811-8 C3321
- ◆第5巻◆中支那經濟年報 第5・6合輯 昭和19年 民国33年 第一・二期
..... 定価23,100円(本体22,000円) ISBN978-4-8433-2812-5 C3321

日中関係史資料叢書

上海・南京という、中国の心臓部、
華中を中心とする貴重史料を集成。

抗日・排日関係史料

日中関係史資料叢書 1

—上海商工会議所「金曜会パンフレット」—

全11巻・別巻1 ●揃定価205,590円(本体195,800円)

[監修] 金丸裕一 上海日本商工会議所が中心となって結成された経済団体「金曜会」が発行した『金曜会パンフレット』を全号復刻。昭和4年～同14年の「排日」活動の実態や日中間の情報戦を知る貴重文献。

中国紳士録

日中関係史資料叢書 2

全2巻●揃定価50,400円(本体48,000円)

[監修] 金丸裕一 「満洲」を除く「北中南支官民各層に及ぶ貴重データ・ベース。滿蒙資料協會(東京)編纂、1942年7月刊行『中国紳士録(第2版)』。初版は『満洲紳士録(第3版)』の付録であったため、ごく限られた内容であったが、この第2版では13,300人余を収録。詳細索引付き。

中國年鑑・大陸年鑑

日中関係史資料叢書 3

[監修] 金丸裕一 全13巻●各定価24,150円(本体23,000円)

●第1回・全7巻揃定価169,050円(本体161,000円)

●第2回・全6巻揃定価144,900円(本体138,000円)

上海で1931年(民国20年版)～1944年(昭和20年版)まで刊行された年鑑。中国の政治・経済・軍事・外交・文化等、多方面に及ぶ連続的なデータを収録。

南京

日中関係史資料叢書 4

全1巻+別冊●揃定価45,150円(本体43,000円)

[監修] 金丸裕一 70年過ぎてなお議論が続く「南京事件」をとりまく基礎文献。日中戦争を、軍事史の視点や抵抗史の視点ばかりではなく、占領地で生活していた中国人、日本人にも光をあて、新しい視点から日中関係を照射。別冊として南京特務機関編「南京市政概況」を収録。

大陸会社便覧

日中関係史資料叢書 5

全3巻●揃予価32,550円(本体31,000円) 2009年2月刊行予定

[監修] 金丸裕一 『会社四季報』(東洋経済新報社刊)の中国版(昭和16～18年版)、東洋経済新報社京城支局及び東京刊。資本金100万円以上の企業を網羅、昭和17年版では940社を収録。本社所在地、設立年月日、事業内容、資本金、株式・株主数、役員、大株主、業績等を記載。有用な索引付き。



〒101-0047
東京都千代田区内神田2-7-6
TEL .03 (5296) 0491
FAX.03 (5296) 0493
http://www.yumani.co.jp/
e-mail eigyou@yumani.co.jp

●特にすすめしたい方● 大学図書館、日本近代史・中国史・アジア史・植民地史・外交史の研究者、関係研究機関など。

ご注文書	ゆまに書房 Tel.03 (5296) 0491/Fax.03 (5296) 0493 年 月 日	
	中支那經濟年報 全5巻 揃定価129,150円(本体123,000円) ISBN978-4-8433-2807-1 C3321	
お名前	セト	
住所	TEL ()	

取扱店

※毎度ありがとうございます。お申し込みはぜひ当店へ。



08.09/01.7000.H

第五節 儲備券の輿地流通面の擴大強化策……………二四二

第二章 儲備券の急發展とこの後に來るもの……………二四三

第一節 儲備券流通量の増大……………二四三

第二節 上海に於ける儲備券經濟の確立……………二四四

第三節 儲備銀行の統制力の強化……………二四六

第三章 幣制統一と殘された重要課題……………二五一

第一節 舊法幣沒落の様相……………二五一

第二節 儲備券の急發展と幣制統一……………二五一

第三節 今後に残された重要課題……………二五〇

第四部 『政治情勢』篇

第一編 大東亞戰爭と國民政府……………二六六

第一章 事變處理と國府育成問題……………二六六

序……………二六六

第一節 大東亞戰に於ける新支那の役割……………二六七

第二節 國府強化による支那問題の解決……………二六九

第二章 大東亞戰爭と國府發展の過程……………二七一

第一節 大東亞戰爭と日支關係の進展……………二七一

第二節 安居樂業の促進と軍事力の擴充……………二七二

第三節 財政部門に於ける今後の問題點……………二七四

第三章 中國の再建と新國民運動の展開……………二七六

第一節 大東亞戰爭と國府の大方針……………二七六

第二節 新國民運動の展開……………二七八

第三節 具體策の推進……………二八一

第四節 新國民運動の指導理念……………二八二

第五節 新國民運動と三民主義……………二六五

第四章 清郷工作の推進とその現段階……………二六八

第一節 事變解決と清郷工作の重大意義……………二六八

第二節 清郷地區と中央との政務連絡は一段と進捗……………二九〇

第三節 清郷地區内の黨工作と教育行政……………二九一

第四節 政治力の滲透と相俟つて囑望される經濟力……………二九二

第五節 従來の通念を排拭し經濟的革新を見出す……………二九四

第六節 工作一年の成果と經驗……………二九六

第五章 金融機關管理暫行辦法公布の意義……………二九七

第一節 國府の劃期的な金融統制……………二九七

第二節 金融・物價の安定期待……………二九八

第二編 大東亞戰爭と重慶政權……………三〇五

第一章 重慶政權の經濟的抗戰能力……………三〇五

序……………三〇五

第一節 大資本との合作抱合による地方掌握の途を通る……………三〇六

第二節 經濟的に孤立化した奥地農村……………三〇八

第三節 國家資本による奥地工業の建設……………三一一

第四節 崩壊に瀕した重慶の財政金融政策……………三二七

第五節 大資本中心の奥地流通機構の再編成……………三三二

第二章 重慶政權の分解作用……………三三四

第一節 戰敗五年の重慶政權の構造……………三三四

第二節 對内・外的窮况打開に苦慮……………三三六

第三節 重慶國民黨と各派との抗爭……………三三九

第三章 對立深化の中國共產黨……………三三三

序……………三三三